鶴岡市社会福祉協議会

おだがいさま

ODAGAISAMA

第119号
令和7年
8月1日発行

地域の宝として子どもを育てよう

ボランティア活動で子育て支援！

鶴岡市櫛引地域では、子どもの元気で健やかな成長を願い、子育てを応援したい方が「子育てサポーター」として活動しています。活動内容は、地域の保育園や小学校、くしびき子育て支援センターからの依頼を受けて、遊びの準備や参加・見守り、手作りおもちゃや学習活動で使用する教材作成などのお手伝いをしています。

この取り組みは、鶴岡市社協櫛引福祉センターが平成21年にスタートした事業で、今回は、この活動を長年続けているお二人のサポーターにお話を伺いました。

「参加予約なし！自由に時間が取れた人が来れる場所」

平成30年から活動中　清和　ふみ子 さん

子育てサポーターの製作活動は月に２回ほどです。予約制ではなく、参加者が一人か二人の時もありますが、この自由で縛られないスタイルだから長く続けられると感じています。

私自身は、裁縫は得意ではありませんでしたが、サポーターの仲間や関係職員が悩み相談に乗ってくれたり、笑いの絶えない温かい活動の場を作ってくれるおかげで、少しずつできるようになりました。また、保育園の先生や子どもたちから「ありがとう」や「大事に使います」といった言葉をいただくとやりがいを感じます。

この活動を通じて達成感を味わうことができます。これからも色々なことに挑戦していきたいと思っています。

「道路を歩いていると、こどもたちが声をかけてくれるんです」

平成25年から活動中　清和　梅子 さん

子育てサポーターを始めたきっかけは、友人の家庭で赤ちゃんの子守を手伝ったことでした。保育園に行くのを嫌がるとき、一緒に遊んだり、送ったりしていました。子育てサポーターは、かわいい子どもたちと触れ合えることが、何よりの魅力です。

年を取ると家から出たくないと思うこともあります。でも保育園を卒園した子どもが家に遊びに来てくれたり、道路を歩いていると「梅ちゃーん！」と声をかけてくれる子がいたり、そうしたつながりが嬉しいですね。これからも体が動く限り、この活動を続けていきたいと思っています。

学習方法研究所
Lab@PAPPA
代表　加藤　眞由美 さん

埼玉県出身。鶴岡市在住。二児の子どもを育て上げ、義両親の介護を経験。鶴岡市で学習塾を10年間経営。50代でアメリカ留学。「地域共創のすすめ」の編集に携わる。2025年「学習方法研究所Lab@PAPPA」を立ち上げる。

Interview

まちのふくし人

このページでは、鶴岡市で「誰もがその人らしく暮らす地域づくりや活動を行っている人」を紹介します。

「ちょっとやってみようかな」から始まった多様な活動

今回は、個性に応じた学習支援や啓発などを行う「学習方法研究所Lab@PAPPA」という活動をスタートし、出羽庄内国際村の日本語教室指導ボランティアなど、多方面で活動をしている加藤眞由美さんにお話を伺いました。

「学習方法研究所Lab@PAPPA」の活動について教えてください

「一人ひとりに合った学習方法を見つけること」を目的に活動しています。現在は、読み書きに困難を抱える子どもへの学習支援や、多様な背景を持つ外国人の方々への日本語教育などを行っています。

活動を始めたきっかけは？

鶴岡に暮らしはじめて、義両親の介護をしながら学習塾を開き、十年間、地域の子どもたちと関わってきました。その中で「その子に合った学び方」をすると力の伸びがまったく違うことに気づき、学び方そのものに関心を持つようになりました。

その後、東北公益文科大学大学院で「学び方」をテーマに研究を行い、それを実践につなげたいという思いから「学習方法研究所 Lab@PAPPA」を立ち上げました。適した学び方を見つけることは、自分自身を知ること。学ぶ人には、学びの過程を楽しんでほしいと願って活動しています。

また、知的な遅れはないのに「読み書き」が苦手な人（ディスレクシア）に出会い、彼らへの支援が「自分に合った学び方を選ぶ」ことと重なると感じたことから、この分野にも力を入れています。

最初の一歩を踏み出す秘訣は？

もともと明確な目標やビジョンがあったわけではありません。「ちょっとだけやってみようかな」「自分にもできるかもしれない」という気持ちで一歩を踏み出していくうちに、自然と今の活動につながっていきました。「自分の力は小さいから」と動かずにいるよりも、少し動いてみることで何かに出会えたり、何かが変わったりします。

そして鶴岡は、「おだがいさま」の精神や「人のために何かしたい」と思う人が多く、人とつながりやすい地域だと感じています。それが鶴岡の地域性であり、大きな強みだと思います。

今年六月には、初めて「読み書き困難の理解啓発」を目的とした講演会を開催しましたが、多くのご縁やつながりのおかげで実現できたと感じています。

これからの目標や、やってみたいことを教えてください

今後は、「個性に応じた学び方を選ぶこと」が特別なことではなく、自然に受け入れられる社会になってほしいと思っています。そのために、子どもや保護者だけでなく、先生たちとも悩みを共有していけたらと考えています。

また、出羽庄内国際村日本語教室でのボランティアを通じて、地域で暮らす外国人と地域社会とをつなげていきたいという思いが強くなりました。特に災害時、外国人は支援を受ける側になりがちですが、互いに話し合い、協力し合うことで、地域の力になれると信じています。

取材を終えて

加藤さんの原動力は「ちょっと動いてみる」こと。その小さな一歩の積み重ねが、今の大きな活動につながっています。

いま、あなたの中にもある「ちょっとやってみようかな」という気持ちが、誰かの力になるかもしれません。

学習方法研究所
Lab@PAPPA
（ラボ・パッパ）

facebook

鶴岡市社会福祉協議会

令和６年度 事業報告と決算報告

第３期（令和３年度から令和７年度）「地域福祉活動計画」、「発展・強化計画」、「事業経営計画」の４年次として、掲げた目標を計画的に推進しました。

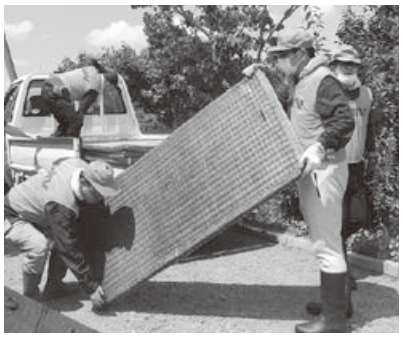
重点事業報告

1 法人運営の充実・強化

・組織統治体制の強化に積極的に取り組むとともに、コンプライアンス（法令等遵守）を徹底し、公正かつ適正な法人運営を進めました。
・経営基盤の安定と強化を図り持続可能な事業展開を進めるため、事業全体の方向性を検討するプロジェクトチームを設置し、各事業の業務･財務分析による事業評価を基に経営改善を進めました。

2 地域福祉活動の推進

・地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2020」に基づいた活動を進めるとともに、各地域が作成した「地域支え合いプラン」に基づく地域の福祉活動を支援しました。
・各福祉センターごとに地域福祉ワーカーを配置し、制度の狭間にある課題を抱える方、地域で孤立している方等の把握に努め、訪問や同行支援、社会参加の機会へつなぐ等、関係機関や地域組織との連携、協働により相談支援を行いました。
・令和６年７月の大雨災害では、災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災された方々の生活再建に向けた支援を行いました。また、他の市町村で災害ボランティアセンターが開設された際には職員を派遣し、支援活動に取り組みました。


大雨災害での支援活動

3 生活支援事業

・権利擁護支援検討会議の定期開催や成年後見制度に係る相談対応、情報発信等を進めながら、成年後見センターとしての機能充実に努めました。
・日常生活自立支援事業では、適正な利用契約に近づけていくよう、相談機関等からの情報収集や個別に事業方針等の周知を行いながら、適切な事業推進に努めました。
・新型コロナウイルス感染拡大の影響による支援資金借受世帯への対応について、償還指導に合わせて生活状況を把握し、継続して支援を行いました。一連の取組が評価を受け、全国社会福祉協議会や福島県社会福祉協議会へ情報提供、情報発信を行いました。

認知症カフェ「きてみっ茶屋」

4 高齢者福祉、障がい者福祉事業

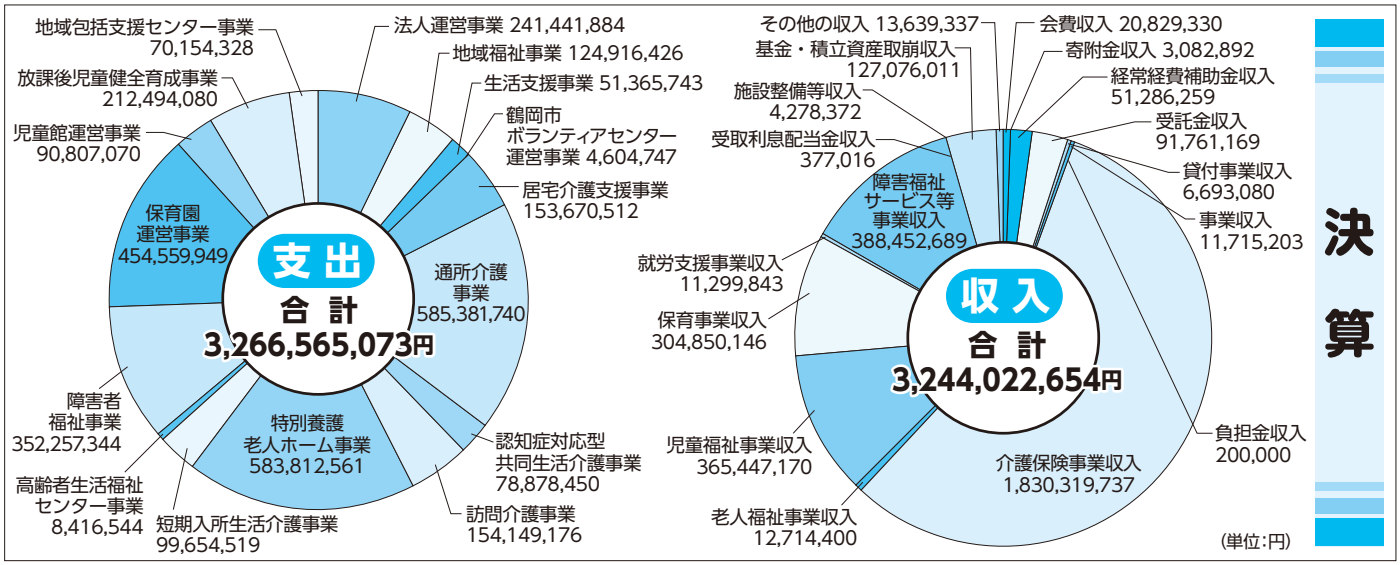
・虐待防止及び身体拘束適正化に関する研修や接遇研修等を行い、利用者の権利擁護の推進を図るとともに、信頼性の高いサービスの提供に努めました。
・災害発生時の地域と連携した対応として、高齢者の入居施設では地域支援員や地域協力員の参加による夜間想定の避難訓練及び炊き出し訓練を実施、また、鶴岡市ゆうあいプラザでは、鶴岡市総合防災訓練の際に福祉避難所の運営を想定した訓練に参加しました。

5 児童福祉事業

・保育園の統合に向け、転園後のスムーズな移行を支援するため、園児たちの交流会を定期的に実施しました。また、年度末をもって閉園となったくしびき東部保育園・くしびき南部保育園では、それぞれ閉園式を行いました。
・第四学区学童保育所の登録児童の増加に伴い、旧鶴岡市立南部保育園を改修し、クラブ室を確保（分館開設）しました。小学校の夏季休業に合わせて開所し、安全確保のためバス送迎を実施するなど、子どもたちと保護者が安心して利用できる環境整備に努めました。

第四学区学童保育所 分館

決算



災害ボランティアセンターの運営　有事に備え協力体制強化

鶴岡市と鶴岡市社協が災害協定締結

鶴岡市と鶴岡市社会福祉協議会による市災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定の締結式が6月24日、市役所で行われました。今回の協定締結は、鶴岡市で災害が発生した時に、災害ボランティアセンターの設置判断や、お互いの役割分担、費用の負担など、これまで相談しながら行ってきたものを明確にし、より迅速に対応できるようお互いの協力体制を強化することを目的としたものです。

締結式には関係者約10名が出席し、皆川市長が「これからの災害対応への備えが一歩前進する」、山木会長が「大きな枠組みでのマニュアルが整備され、大変ありがたい」とあいさつし、協定書を交わしました。

情報掲示板

農福交流マルシェ「あしたば広場」開催のお知らせ

「あしたば・あぐりランド」では、働きたいけれど障がいや働きづらさを抱える方等を農業や地域産業とつなげ、就労への一歩を踏み出せるよう支援しています。その取り組みの一環として、新鮮野菜や障がい者施設のハンドメイド品等を販売する農福交流マルシェ「あしたば広場」を開催します。

日　時：令和7年8月31日(日)
10:00～15:00
場　所：鶴岡地区医師会
荘内地区健康管理センター駐車場
問合せ：あしたば・あぐりランド
(社会福祉法人月山福祉会)
TEL 0235-33-8939

令和7年度「ふれあい福祉相談」のご案内

●職員による相談

福祉全般にかかわる困りごとに職員が応じ、関係機関と連携しながら解決に向けて継続的に支援を行う相談窓口です。
日時：月～金（祝日を除く）　8:30～17:15
場所：各福祉センター（問い合わせ先／ページ下段に記載）

●巡回弁護士相談（下半期10月～3月）

10月 8日(水) 10:00～15:00	朝日福祉センター
10月15日(水) 10:00～15:00	鶴岡福祉センター　地域福祉課
11月19日(水) 10:00～15:00	藤島福祉センター
12月17日(水) 10:00～15:00	鶴岡福祉センター　地域福祉課
1月21日(水) 10:00～15:00	鶴岡福祉センター　地域福祉課
2月18日(水) 10:00～15:00	鶴岡福祉センター　地域福祉課
3月11日(水) 10:00～15:00	鶴岡福祉センター　地域福祉課

※相談料金は**無料、相談時間はお一人30分**です。
※相談は**予約制**となっております。
各日程の1か月前から予約を受け付けます。

ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます
（令和7年5月1日から令和7年6月30日までのご寄付を掲載しています）

★一般社会福祉事業へ
◎朝日福祉センターへ
・出羽商工会　朝日支所 様　6,584 円

★鶴岡市障害者相談支援センターへ
・阿部 孝子 様　手話関係DVD 5枚

★デイサービスセンターとようらへ
・岩ゆり会 様　ウエス 8.9 kg
・小波渡自治会 様　衣類 7 点

★児童福祉事業へ
・国際ソロプチミスト鶴岡 様　100,000 円

★フードバンクへ
・JA 鶴岡女性部 様　食品72点
・つるおか森の時間 様　食品12点
・佐藤 金二 様　玄米30kg

おだがいさま
第119号
令和7年8月1日発行
発行部数　47,300部

編集・発行
社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
本部事務局 鶴岡市山王町13番36号
TEL 0235-26-7815
FAX 0235-26-7837
ホームページ https://www.shk01.jp/

鶴岡福祉センター
地域福祉課　TEL 26-9222
生活支援課　TEL 24-0053
藤島福祉センター　TEL 64-3100
羽黒福祉センター　TEL 62-4534
櫛引福祉センター　TEL 57-5300
朝日福祉センター　TEL 53-2795
温海福祉センター　TEL 43-2114

広報誌「おだがいさま」は、赤い羽根共同募金配分金と社協会費を財源とし、偶数月に全戸配布でお届けしています。